

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。但し、そのお申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。なお、同意の有無が今後の治療等に影響することはありません。

【自家肋軟骨を用いた義眼床作成の有用性】に関する研究

1. 研究の対象

2021年1月1日から2023年12月1日までに東海大学医学部附属病院眼科において眼球内容除去術を受けられた方

2. 研究実施期間

(機関の長の許可日) から2024年12月1日まで

3. 研究目的・方法

目的：眼球内容術を受けられた方は、その単独手術後には義眼を装用しても眼窩陥凹（奥目）になります。当院では、整容面の改善や良好な義眼の使用感を目指して、義眼床作成術を追加で形成外科と一緒にを行っています。義眼床に用いるものは、当院ではご自身の肋軟骨を使用しています。この方法による術後成績についての論文は少なく、本研究では、肋軟骨移植による義眼床作成術の有用性について評価いたします。

方法：当院において眼球内容除去術を受けた方（義眼床作成術を受けた方及び受けていない方を含みます）が対象となり、研究者が診療情報（カルテ）の内容をもとにデータを選びます。眼球内容除去術を受けた目（義眼床作成術を受けた目及び受けていない目を含みます）と、受けていない目との眼球突出度や、眼球運動の差などを評価します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療記録（カルテ）より、年齢、診断名、治療内容、検査結果、画像診断結果を用います。名前や、生年月日などの個人を特定できる情報を公表することはありません。また、プライバシーの保護に配慮し、個人情報などが漏洩しないよう試料・情報の取り扱いに細心の注意を払います。試料は該当しません。

5. 情報の提供先・提供方法

該当しません。

6. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの資金提供はないため開示すべき利益相反はありません。

7. お問い合わせ先

東海大学医学部附属病院 （電話：代表 0463-93-1121 内線：3424）

研究責任者 眼科／中川 喜博

問い合わせ担当者 眼科／佐藤 恵理